

地域子ども・子育て活動支援助成事業 実施報告書（別紙２）

団体名	学童ホール支援グループ
-----	-------------

取組の名称	子どもを見守るみんなの居場所づくり事業		
実施場所	たまっ子学童ホール		
対象地域	川崎市多摩区		
対象地域の特色・課題	近隣に小学校が多くあり、子育て世代が多い地域である。 新しい保育園もでき、働く母親の多いことがわかる。 シニア世代も多いが、交流の場は少ない。		
取組の趣旨・目的	<ul style="list-style-type: none"> ○共働き家庭やひとり親家庭の親子を支援する。 ○地域の人にも気軽に立ち寄れる、みんなの居場所を作る。 ○多世代が交流し、みんなで子どもを見守る。 		
実施内容・実施スケジュール	<p>①放課後児童健全育成事業 学校がある日は放課後から、学校のない日は早朝から、保育にあたった。インフルエンザによる学級閉鎖の場合は、午前中からの保育にも対応した。通年で、中学生以上のボランティアを受け入れ、保育の手伝いやたまっ子まつりの手伝いをしてもらった。</p> <p>②たまっ子どうぶつしょうぎ大会 (4/16, 5/7, 6/11, 8/20, 9/18, 10/15, 12/10, 1/21, 2/23) たまっ子まつり (7/9, 11/26, 3/10)</p> <p>③こども食堂 (4/21, 5/19, 6/16, 7/21, 8/18, 9/22, 10/27, 11/24, 12/15, 1/19, 2/16, 3/15)</p>		
参加者の年代	①小・中学生 ②幼児～大人 ③乳児～大人	定員 (1回あたり)	①25名 ②なし ③40名

実施頻度	①月曜～土曜日 ②しょうぎ大会(年9) たまっ子まつり(年3) ③月1回	活動日数 (年間)	295日
スタッフ体制	①2～5名 ②しょうぎ大会2～4名 たまっ子まつり5～10名 ③2～3名+菅ごはんの会		
連携する団体・ 連携の手法	菅ごはんの会 こども食堂は、事前にこちらで予約を受け付け買い出しをして、準備・調理・片付けをお任せしている。 こども食堂の当日は、15時半から台所と二階を貸し出す。		
取組実施により 見込まれた効果	①新型コロナウイルスは多少落ち着いたものの、インフルエンザの感染が拡大し、学童児の誰かが常に登校停止の状態であった。インフルエンザによる学級閉鎖、学年閉鎖も多く、仕事を休めない保護者のために午前中からの保育で対応もした。 手洗いうがい、消毒、マスクを徹底し、学童内での感染者は出さずに済んだ。 年間を通して広くボランティアを募っていることで、小学校教諭や保育士を目指す学生も受け入れ、お互いに良い経験となっている。 精神保健福祉士が月2～3回保育に入ることで、児童の問題行動やスタッフのメンタル面をサポートしている。 ②町内会の掲示板や、近隣の保育園・幼稚園に案内を貼らせてもらったり、学童児や保護者が知り合いにチラシを渡したりすることで、広く宣伝している。 たまっ子まつりは、タウンニュースにも掲載を依頼し、多くの人が訪れた。学童児は店番を手伝い、地域の人との交流も楽しんだ。 どうぶつしょうぎ大会は、たまっ子まつり開催月以外の全ての月に開催ができた。地域の人や学校のお友だちなど、誰でも気軽に参加できることで好評を得ている。 ③こども食堂は、シニア団体から変更してママさん団体になったため、毎月開催することができた。		